



今井小だより

横浜市立今井小学校
令和3年12月24日
学校だより1月号

学校教育目標 : かがやいている子「自分大好き!今井大好き!」

年末・年始を迎えて

学校長 森脇 信行



12月に孵化した
アホロートル

新型コロナウイルスによる感染拡大防止のため、夏休み明けは分散登校でスタートしました。一斉登校になった後は、延期となっていた校外学習と秋に予定していた学校行事が重なり、あわたしきを感じる毎日を送っていました。このような状況の中、気が付けば無事に冬休みを迎えることができました。保護者、地域の皆様のご理解とご協力のおかげと感謝申し上げます。

この一年間を振り返ると、一連の騒動の中、「正しく恐れる」「ニューノーマルの構築」「ソーシャルディスタンス」など数々の教訓も得られたと思っています。子どもたちだけでなく、私たち大人も、新型コロナウイルスから得た教訓をもとに、自分の健康だけでなく、周囲の人のことも大切にしたい責任ある行動をとることができるようになっていきたいと考えます。

さて、冬休みは2週間と短いですが、一年の終わりと始まりを経験する大切な時期です。日本では、昔より、一年間の終わりに掃除や片付けをして、きれいな状態で新年を迎えたいとする風習があります。きれいに掃除した後には、玄関に門松を飾るなど新年を迎える装飾をします。是非、掃除や片付けの際は、子どもたちにたくさん、手伝いをさせてあげてください。また、年越しそばを食べるときなどに一年の中で頑張ったことを出し合って、子どもたちをたくさんほめてあげてください。

大晦日、除夜の鐘が鳴り響く中、新しい年が始まります。元日は昔より日本人が一年のうちで一番大切にしている日です。また、人はだれしも、新年のこの時期には清新な気持ちになります。初詣に行く方は、これから始まる一年を展望しながら、手を合わせて夢を描いたりするものです。私は、この機会を子どもたちに大切にさせたいと考えます。この際、夢を大きくもつことを改めて推奨します。夢は目標であり、実現させるためには努力が必要です。子どもが自分の夢を実現させようとするエネルギーは、子どもの成長に好ましい影響を及ぼします。目標が大きいほど、子どもは自ら、その夢を実現するためのエネルギーを生み出すことにつながると考えます。ここで、一年前の新年に描いた夢の実現状況について、子どもに問いかけるのもよいでしょう。夢や目標を立てた以上、実現できたのか、実現できなくてもどこまで達成できたのか振り返ることは、教育的な意味があると思います。努力した自分を自覚させることは、自尊感情や自己肯定感に繋がるからです。大人になる過程において、このような体験を積み重ねることは豊かな人生の実現への意味あるステップであると考えます。